

1 研究の概要

(1) 研究主題

音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成する授業づくり

—我が国の伝統音楽の学習における領域の関連を図った題材構成を通して—

(2) 主題設定の趣旨

音楽文化についての理解を深める指導

現行学習指導要領には、「音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養う」⁽¹⁾という音楽科の目標が示されています。この学習指導要領では、音楽文化についての理解を深めることが新しく規定されました。我が国の音楽文化に愛着を持つとともに、諸外国の音楽文化を尊重する態度を育成することが重視され、「曲種に応じた発声や和楽器で表現したり、音楽をその背景となる文化・歴史と関連付けて鑑賞したりする」⁽²⁾学習活動は、音楽文化の理解につながると提示されました。この現行学習指導要領の成果と課題について、中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策について（答申）」では、「感性を働かせ、他者と協働しながら音楽表現を生み出したり、音楽を聴いてそのよさや価値等を考えたりしていくこと、我が国や郷土の伝統音楽に親しみ、よさを一層味わえるようにしていくこと、生活や社会における音や音楽の働き、音楽文化についての関心や理解を深めていくことについては、更なる充実が求められるところである」⁽³⁾と述べられており、これら3点が課題として挙げられています。

学習指導要領において求められている資質・能力

平成29年に改訂された新学習指導要領では、目標に「表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す」⁽⁴⁾と示され、新しい時代に求められる資質・能力、とりわけ、学びを人生や社会に生かそうとする力を育成することが盛り込まれています。つまり、生徒が音楽に対して興味・関心を持ち、音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚・感受する学習を踏まえて、生徒が音楽科の学習で得たものを自分の生活や将来にどう生かしていくか、ということを考えることができるような指導の工夫が求められています。

本研究の目的

上記の中央教育審議会答申に挙げられている3点の課題を踏まえ、本研究では、中学校2年生の生徒を対象に、我が国の伝統音楽の一つである歌舞伎の学習を通して、長唄を歌うという表現領域と歌舞伎を鑑賞するという鑑賞領域とを関連させながら学習するような題材構成について研究します。我が国の伝統音楽を学習するに当たり、表現領域のみや鑑賞領域のみの学習ではなく領域を関連付けることで、生徒が、現代の音楽文化と比較しながら、それらの音楽の時代背景を理解したり、なぜその音楽が流行し、現代まで受け継がれているかを考察したりすることができ、より豊かに音楽文化と関わることができるのではないかと考えます。そこで、表現領域と鑑賞領域とをどのように絡ませるかという題材構成や、楽曲との出合わせ方や関わらせ方についての授業展開の工夫をします。音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出すよさや面白さ、特質や雰囲気を感じたことを、他者と共有したり、歌舞伎に出てくる

長唄を唄ったり、歌舞伎が草創、確立された当時の時代背景を学習したりすることで、歴史や人々の暮らしなどを関連させて音楽を捉えたり、自分にとってのその音楽の価値を考えたりすることにつながるかを検証します。この取組によって、生徒の音楽文化と豊かに関わる資質・能力の育成を図ります。

(3) 研究の目標

中学校音楽科における我が国の伝統音楽の学習において、生徒が音楽文化と豊かに関わることのできる授業づくりをするために、表現領域と鑑賞領域の関連を図った題材構成と、楽曲との出合わせ方や関わらせ方を工夫した授業づくりを探る。

(4) 研究の仮説

中学校2年生における歌舞伎と長唄の学習において、長唄を歌う学習と歌舞伎や長唄を鑑賞する学習を関連付けた題材構成を工夫し、知覚・感受を支えとして、時代背景等と関連付けながら理解した歌舞伎や長唄の特徴を他者と共有することができるよう授業展開を行えば、生徒は知識・技能を習得・活用しながら、長唄の音楽表現を創意工夫したり、歌舞伎や長唄のよさや美しさを味わって聴いたりすることができるようになり、歌舞伎に親しんでいく態度が養われるであろう。

(5) 研究方法と内容

- ア 我が国の伝統音楽の指導に関する文献調査を通し、領域の関連を図った題材構成や楽曲の出合わせ方や関わらせ方についての授業展開の工夫の在り方を探ります。
- イ 対象学校2年生の生徒に、我が国の伝統音楽に対する興味・関心、または印象等について質問紙調査を実施し、生徒の実態を把握します。
- ウ 歌舞伎「勧進帳」を教材とし、表現領域と鑑賞領域の関連を図った題材構成と手立てを工夫した授業実践を行い、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成する授業づくりができたのか、手立ての有効性を検証します。

《引用文献》

- (1) 文部科学省 『中学校学習指導要領』 平成20年3月 p. 74
- (2) 文部科学省 『中学校学習指導要領解説音楽編』 平成20年9月 p. 8
- (3) 中央教育審議会 『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等改善及び必要な方策について（答申）』 平成28年12月 第2章7
- (4) 文部科学省 『中学校学習指導要領』 平成29年3月 第2章第5節